

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年2月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105131
法人名	社会福祉法人 寿康会
事業所名	寿康園グループホーム 宮之浦
所在地	鹿児島市宮之浦町892番地 (電話) 099-294-1017
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成22年2月28日

【情報提供票より】(22年 2月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	17 人 常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算 13.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 2階建ての 1階 ~ 2階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,440 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300 円		

(4) 利用者の概要(2月10日現在)

利用者人数	18名	男性	8名	女性	10名
要介護1	6名	要介護2	0名		
要介護3	11名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 87.4歳	最低	74歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	うえはらクリニック、太田歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市郊外の静かな住宅地にH18年に設立されたホームである。関連施設として特養やケアハウスなどがあり、連携しながら安心して暮らしを提供している。設立当初から近隣住民との関係は良好であったが、地域との関係を重要視し、きめ細かい情報提供や声かけを行なった結果、交流は日常的で、防災対策など相互で協力する取り組みが続いている。さらに、介護相談員を定期的に受け入れたり、第三者委員を設けるなどサービスの透明性の確保に努めている。中に入ると職員の明るいあいさつが気持ちよく、角のない柱、車いすでも十分に移動できるスペースなど安全性への配慮が感じられる。利用者の「自分らしい、自由な暮らし」のために、豊富な研修やミーティングを土台に、職員が利用者の言葉や行動を待ち、受け止め、書きとどめ、それを基にサービスを展開しているホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の外部評価の結果を職員ミーティングで伝達し具体的な取り組みを話し合い、水分摂取についてはバイタル表の検討を行い、記録を開始するなど速やかに改善策を設け、実施している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は外部評価の意義について職員全員が理解して取り組むことが大切だと考えている。今回の自己評価は各々の職員と話をしながらまとめたもので、サービスの質を向上させるために有効に活用している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに開催され、校区館長、公民館長、地域包括支援センター、民生委員などの参加がある。事業所行事の報告のみではなく、外部評価結果や自己評価の説明を行ったり、出席者から救急ボランティア養成についての提案があり、取り組みが始まるなど有意義な会になっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書の冒頭に相談窓口を記載するとともに、第三者委員を玄関に掲示し、家族会も定期的に関くなど家族が意見や要望を表しやすい工夫と配慮が感じられる。職員が苦情などを把握した時には業務日誌で他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	あいさつや声かけ、畑の野菜のおすそ分け、小中学生との交流、地域行事への参加など関係づくりに力を入れている。また、高齢者サロンで認知症への理解を深めるための情報提供を行っている。設立当初から近隣の理解が得られたことや、家々を訪ねてコミュニケーションを重ねた結果、日々のお付き合いが良好で、防災訓練を地域住民と合同で行うなど相互協力体制も整っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の運営理念の一部に「家族や地域社会、住民とかかわりのある生活を提供します」とあり、さらに、職員自身が話し合い、「家族と地域の連携を深める」と今年の目標を考え、地域密着型としてのサービスを全員が意識づけるようにしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月会議の資料に記載したり、会議の冒頭に確認し振り返りを行う。日々の業務の中でも折に触れ理念を確認し介護に取り組んでいる。また、作成された理念・目標は玄関、事務室などに掲示し職員のみでなく来所者にも理解してもらえるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	あいさつや声かけ、畑の野菜のおすそ分け、小中学生との交流、地域行事への参加など関係づくりに力を入れている。また、高齢者サロンで認知症への理解を深めるための情報提供を行っている。設立当初から近隣の理解が得られたことや、家々を訪ねてコミュニケーションを重ねた結果、日々のお付き合いや防災訓練も地域住民と合同で行うなど防災時の相互協力体制が整っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価の意義について職員全員が理解して取り組むことが大切だと考えている。昨年度の外部評価の結果を職員ミーティングで伝達し具体的な取り組みを話し合い、水分摂取については速やかに改善策を設け、実施している。今回の自己評価は各々の職員と話をしながらまとめたもので、サービスの質を向上させるために有効に活用している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催され、校区館長、公民館長、地域包括支援センター、民生委員などの参加がある。事業所行事の報告のみではなく、救急ボランティア養成など出席者の意見や助言などがあり、有意義な会になっている。運営推進会議では、外部評価結果や自己評価の説明も行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事務手続きの際に担当窓口へ出向いたり、電話での問い合わせを通じて情報交換を行っている。また、毎年1回は介護相談員を迎えたり、社会福祉協議会を通じてボランティアを受け入れるなどの連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の日ごろのようすを記録したCD-Rを配布したり、介護記録の閲覧を積極的に勧めたり、広報誌で利用者の暮らしぶりを伝えたりしている。金銭管理は2名で立ち会い、家族のサインをもらう。職員の異動については面会時と広報誌にて報告している。利用者の健康状態に変化があった時にはそのつど電話などで家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書の冒頭に相談窓口を記載するとともに、第三者委員を玄関に掲示し、家族会も定期的に関くなど家族が意見や要望を表しやすいような工夫と配慮が感じられる。職員が苦情などを把握した時には業務日誌で他の職員と共有し、必要な場合は職員会議で話し合い、本人や家族に報告するなど速やかな解決を図っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者や管理者は職員の異動による利用者への影響を考慮し、離職を防止するように努力しており、昨年の異動は少ない。異動がある時には引き継ぎ期間を十分に設け、情報の伝達と利用者の混乱を防ぐための対応をしている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の計画があり、施設外研修は管理者が職員に紹介し、勤務の調整をしたり受講費を法人が負担するなど積極的に支援している。受講者は報告書を作成し職員会議などで伝達を行っている。人事考課制度を通して職員自身と話し合い、習熟度に応じた具体的な研修計画を立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	理事長主催の他職種との研修会を開催し、懇親会へも参加するなど様々な職種との交流の機会がある。また、他のグループホームとも研修会で意見交換を行いながらネットワークづくりやサービスの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス開始前に本人や家族に必ずホームの見学をしてもらい、時には、数回来所してもらったり、管理者が出向いて自宅の様子を確認したりして顔なじみの関係作りを大切にしている。また、入居後は外出、外泊の機会を利用したり、家族の訪問を多くしてもらうなどの協力を求め、ともに支援している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日ごろから過度の介護を行わないように気をつけている。利用者とともに過ごす中で畑仕事、干し柿・干し大根作り、煮物の味付けなど得意なことを教えてもらったり、行事や言い伝えを教えてもらうなど学んだり支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始前に本人や家族、その他の関係者からどのように暮らしたいかを聞き、アセスメントシートなどに記載し、介護計画に活かしている。入居後はなるべく会話の時間を増やし日々のかかわりの中で本人の意向をくみ取り、ケア会議などの場で職員間の共有を図っている。本人と家族の意向の調整も行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や職員が参加して担当者会議を開き、利用者の希望や意向を基に受診時の医師の意見も反映させ計画を作成している。業務日誌を利用したり、ミーティングで話し合うことで、職員の気づきや利用者の意向を反映するようにしている。また、作成した計画は介護記録の冒頭に添付され、常に計画を意識したケアを提供できるように配慮している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに介護支援専門員が評価を行うとともに、毎月の職員会議で利用者の状況について話し合い、計画の見直しが必要な場合は担当者会議を開いて再度計画を作成している。また、状態に変化が見られない場合でも最低半年に1度は見直しを行う。ただし、毎月のモニタリングは全ての利用者について行われているものではなく、今後の取り組みが期待される。	○	安定しているような利用者の場合も、月に1回程度は、新鮮な目で本人や家族の今の意向や状況を確認するとともに、ケア関係者の最新の情報や気づき、ケアのアイデアを集めて、実情に即した、あるいは変化の兆しに予防的に対応していくための介護計画の見直しが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の通院介助や早期退院に向けての支援、家族の宿泊支援や食事の配慮など臨機応変に対応している。自治会への認知症に関する講師の派遣や地域高齢者家族の相談にのるなど事業所が地域にとって身近で相談しやすい存在となるような取り組みがみられる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医選択においては利用者及び家族の希望を大切にしている。また、通院介助や訪問歯科診療の際に、利用者の日頃の状況を主治医や医療担当者に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在は終末期の対応は行っていない。しかし、入居の際に家族などに説明し同意をもらい、入居後は本人や家族の気持ちを確認しながら、対応方針を主治医と話し合い、出来るところをプランにも掲げ、職員にも伝達し共有を図っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関に個人情報の保護方針についての掲示があり、記録等は外来者の目に触れないように事務室に鍵をかけ保管している。利用者への日頃の声かけについては、研修計画に組み込んだり、ミーティングで話し合いを持ちたりしながら個人を尊重するような声かけや行動を実践している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や希望を考慮し、その日の過ごし方について個別に声をかけながら支援している。本人の外出・着衣・理美容などの選択を支援しその人らしい暮らしができるように環境を整えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が一緒になって献立についての話をしたり、買い物、下ごしえ、準備、下膳を共に行う際に食事の希望や食欲を引き出す工夫をしている。主菜は前もって決めているが副菜などはその日の状況で作る。嚥下体操をして口腔環境を整えた後で職員も一緒に円卓を囲みながらの食事である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、曜日、順番、時間をある程度設定している。また、入浴を嫌われる方には入浴時間帯や声かけの仕方を工夫するなど入浴を楽しめるように支援している。異性の介助を気にされる方には同性のスタッフが介助するように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や食事の下ごしらえ、切干大根・団子・干し柿づくりなど生活歴から好きなことを見つけたり、入居後に新たに力を引き出したりしながら、みんなと楽しみながら利用者の力が発揮できるような場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑や田んぼの見回り、自宅の様子見、散歩、ドライブ、外食、墓参り、外気浴など一人ひとりの希望に沿った外出の機会を支援している。グループホームのすぐ前に畑、玄関横に物干し台、椅子があり、周辺道路の交通量も少なく利用者は日常的に外出しやすい環境にあり、気分転換をしたり五感の刺激を受けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関をはじめ各居室に鍵をかけない自由な暮らしの支援を職員の努力や住民の協力で実現している。職員は常に利用者の状態を把握し、外出されるときにはさりげなくついて出たり、見守りを行っている。また、身体拘束廃止についても改善計画書を作成し、年2回自主研修を実施し日ごろのケアを振り返っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間を想定した避難訓練や消火訓練を定期的に行うとともに、風水害を含めた緊急時のマニュアルを作成し、応急手当などの研修にも取り組んでいる。地域住民にはパンフレットを作成し配布したり、消防分団の集会に参加して理解を呼び掛けた結果、協力して災害対策を行う体制を整えている。しかし、食料や飲料水などの備えについては検討の必要がある。	○	住民と協力しての訓練など充実した取り組みだが、さらに、火災や地震、風水害に備えて、食糧や飲料水などの準備についても検討することが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	前年の評価後バイタル表を工夫した。水分摂取量を個人別に把握し、必要に応じて記録することで身体状況を判断しケアに活かしている。また、管理栄養士に研修を受けたりアドバイスをもらいながら食生活の質の向上に努めている。小さめに刻んだり、高濃度液状栄養食を利用したりするなど、利用者の咀嚼能力や栄養状態によってきめ細かい支援に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂などの共有空間には季節の花が飾られ、丸い柱、車いすが自由に移動できる広いスペース、出入りしやすい台所で利用者が安心して活動し、テーブルやソファで思い思いにくつろぐ姿がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷きとフローリングの部屋がある。家族とも相談し一人ひとりの希望や状況に応じて、タンス、椅子、テレビ、テーブル、位牌など馴染みのあるものが持ち込まれ居心地のよい空間となっている。		